

IBM Content Manager for iSeries



計画とインストール

バージョン 5 リリース 3

IBM Content Manager for iSeries



計画とインストール

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、31 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Content Manager for iSeries (プロダクト番号 5722-VII) のバージョン 5、リリース 3 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。本書は、SC88-4001-00 の改訂版です。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC27-1133-01
IBM Content Manager for iSeries
Planning and Installing
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1997, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

本書について	v	ハードウェアとソフトウェアの前提条件	13
対象読者	v	複数環境での考慮事項	15
予備知識	v	Content Manager for iSeries のインストール	15
バージョン 5.3 の新機能	vi	インストール後処理	16
本書の使用方法	vi	インストール後処理を開始するには	16
前提条件および関連情報	vi	Content Manager for iSeries のインストール後処理コマンド	16
Web から利用可能なサポート	vii	インストールの完了	19
iSeries ナビゲーター	vii	ユーザー・プロファイルの作成または変更	19
WWW で入手可能な情報	vii	権限の割り当て	21
		TCP/IP の構成	21
		バージョン 4 リリース 1 環境の削除	22
第 1 章 Content Manager for iSeries の紹介	1	第 4 章 光ディスク記憶装置の計画	23
Content Manager for iSeries ソリューションの計画	1	始める前に	23
現在の環境の分析	1	Content Manager for iSeries と共に使用するためのセットアップの完了	23
Content Manager for iSeries システムの構成の選択	2	3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー用の Content Manager for iSeries のカスタマイズ	23
ライブラリー・サーバー	3	光ディスク・カートリッジの追加および初期化	24
オブジェクト・サーバー	3	LAN 接続光ディスクから直接表示するためのワークステーションのセットアップ	24
クライアント	4	直接接続のパフォーマンスの考慮点	24
ワークフロー・ビルダー	4	テスト文書による光ディスク記憶の検査	24
光ディスク・システム	4	付録. 独立型オブジェクト・サーバーの構成	27
第 2 章 Content Manager for iSeries システムの計画と設計	5	始める前に	27
ハードウェア・コンポーネントの計画	5	2 次サーバーに関する考慮事項	27
通信に関する計画	6	特記事項	31
Content Manager for iSeries について	6	商標	33
ライセンス順守に関するモニターの計画	7	用語集	35
システム・タスクに関する考慮事項	7	索引	43
セキュリティー・レベルの定義	8		
バックアップおよびリカバリー	9		
ストレージ管理	9		
データベースの編成と定義	10		
システムの設計	10		
第 3 章 Content Manager for iSeries のインストールとカスタマイズ	13		
始める前に	13		

本書について

本書は、サイトでの計画およびインストールを担当される方のために、IBM Content Manager for iSeries (Content Manager for iSeries) の準備とインストールの情報を提供します。本書には、この製品のハードウェア・コンポーネントとソフトウェア・コンポーネントの概要、およびこのバージョンを導入するための特定の情報が含まれています。

対象読者

本書は、ユーザーの企業用に Content Manager for iSeries システムの計画、インストール、および構成を担当する方を対象としています。

Content Manager for iSeries のインストール計画を担当するシステム・アナリストまたはシステム・プランナー の場合は、本書をお読みになれば、この製品がどのように業務に役立つかがご理解いただけます。さらに、作業負荷の検討、必要なシステムの見積もり、および現行のビジネス・アプリケーションへのインターフェースの設計にも役立ちます。

文書処理を担当するアドミニストレーター またはスーパーバイザー の場合は、本書は、現行の作業環境の分析方法の理解、および イメージ処理アプリケーションで使用する文書の移動と処理についてのワークフローの構成を開発する際に役立ちます。

Content Manager for iSeries をシステムにインストールし、そのカスタマイズを担当するアプリケーション・プログラマー の場合は、作業の範囲、および追加情報の入手先を知るために、本書を使用することができます。イメージ処理アプリケーションの設計および開発を担当されている場合は、本書は、コンポーネント機能の理解に役立ちます。カスタマイズに関する情報は、アプリケーションの要件に最も適するようにコンポーネントを調整する際に役に立ちます。

予備知識

インストールを開始する前に、Content Manager for iSeries のインストールおよび操作についての研修を受けている必要があります。Content Manager for iSeries の研修クラスについては、IBM® 担当員へお問い合わせください。

また、Content Manager for iSeries システム、IBM トークンリング・ネットワーク、および IBM 3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバーのインストールおよび操作の経験も必要です。さらに、Windows® プラットフォームにソフトウェアをインストールする方法の知識も必要です。

カスタム・システムを設計しインストールするには、以下の知識が必要です。

- システム・ネットワーク体系 (SNA) 拡張プログラム間通信 (APPC)、拡張対等通信ネットワーク機能® (APPN)、または伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP)。
- システム操作およびネットワーク管理

バージョン 5.3 の新機能

本書「*IBM Content Manager for iSeries™ 計画とインストール*」には新しい技術情報が収録されています。変更がある箇所でも、場合によって変更バーが示されていないことがあります。特筆すべき変更点は以下のとおりです。

10 文字のユーザー ID を格納できるようになりました。これまでのリリースでは、ユーザー ID の最初の 8 文字しか使用されませんでした。**重要:** 多くのファイルが、10 文字のユーザー ID をサポートするように変更されています。外部参照をサポートし、EKD0314 ファイルの読み取り/書き込みを行う場合は、カスタム・プログラムを再コンパイルし、そのファイル形式でユーザー ID フィールドの拡張をサポートする必要があります。

本書の使用方法

本書はソフトコピー形式で使用することもできます。詳細については、『前提条件および関連情報』を参照してください。

本書の追加・変更箇所には、I マークが付いています。

前提条件および関連情報

iSeries の技術情報を検索する場合は、まず iSeries Information Center をご利用ください。iSeries Information Center は、以下でご覧になれます。

- Web サイト : <http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter>
- Content Manager for iSeries に同梱されている CD-ROM

「*iSeries V5R3 Information Center*」(SK88-8055-03)。このパッケージには、ソフトコピー・ライブラリー CD-ROM の代わりとなる「*iSeries V5R2 Information Center : 補足資料*」(SK88-8056-01)にある Content Manager for iSeries 資料の PDF 版も収録されています。

IBM iSeries Information Center には、CL コマンド、システム・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)、論理区画、クラスタリング、Java™、TCP/IP、Web サービス提供、保護ネットワークなどの重要なトピックとアドバイスが収められています。また、関連する IBM Redbooks™ へのリンク、および Technical Studio や IBM ホーム・ページ などその他の IBM Web サイトへのインターネット・リンクも含まれています。

製品 Web サイトから Content Manager for iSeries 資料にアクセスする場合は、<http://www-6.ibm.com/jp/software/data/developer/library/manual/cm/index.html> を参照してください。資料は表 1 にリストされています。

表 1. *IBM Content Manager for iSeries 5.3* の資料

名称	資料番号
<i>IBM Content Manager for iSeries 計画とインストール</i>	SC88-4001
<i>IBM Content Manager for iSeries Windows クライアント・スタートアップ・ガイド</i>	GC88-4003

表 1. IBM Content Manager for iSeries 5.3 の資料 (続き)

名称	資料番号
IBM Content Manager for iSeries システム管理ガイド	SC88-4004
IBM Content Manager for iSeries メッセージとコード	SC88-4005
IBM Content Manager for iSeries 拡張ワークフロー・ガイド	SC88-4006
IBM Content Manager for iSeries アプリケーション・プログラミングのガイドとリファレンス	SC88-4007

Web から利用可能なサポート

製品サポートは、IBM サポート (<http://www-6.ibm.com/jp/software/data/support/>) からご利用いただけます。

iSeries ナビゲーター

IBM iSeries ナビゲーターは、iSeries サーバーの管理に適した強力なグラフィカル・インターフェースです。iSeries ナビゲーターは、システム・ナビゲーション、構成、計画を行う機能、およびユーザーのタスクを支援するオンライン・ヘルプを備えています。iSeries ナビゲーターは、サーバーの運用および管理をより容易かつ生産的にし、OS/400® オペレーティング・システムの新しい拡張機能を利用するための、唯一のユーザー・インターフェースとなっています。また、複数のサーバーを中央サーバーで集中管理するためのマネージメント・セントラルも装備されています。

iSeries ナビゲーターの詳細については、Information Center を参照してください。

WWW で入手可能な情報

WWW では、iSeries のより詳しい情報をご覧になることができます。iSeries の一般的な情報については、以下の Web サイトから入手することができます。

<http://www.ibm.com/jp/servers/eserver/iserries/>

iSeries の高度な機能をテーマにしたワークショップへアクセスするには、以下のアドレスにある Technical Studio を利用してください。

<http://www.iseries.ibm.com/tstudio>

第 1 章 Content Manager for iSeries の紹介

本章では、IBM Content Manager for iSeries について学習し、企業に合わせて計画および構成に関する決定を行う方法について学習します。本章では、Content Manager for iSeries 製品のコンポーネントについて説明し、企業の要件に合わせて調整できる文書管理ソリューションを、各コンポーネントが協力して提供する方法について説明します。

Content Manager for iSeries は、iSeries プラットフォーム上で文書を収集し管理するためのクライアント/サーバー・システムです。Content Manager for iSeries を使用すれば、企業は iSeries 上でオブジェクトを収集、保管、および管理し、光ディスク・データ・サーバーにオブジェクトをアーカイブすることができます。

オフィスでは、文書は一般的にファイル・キャビネットに保管されます。ファイル・キャビネットには一般的にフォルダーがあり、フォルダーにはさまざまなタイプの文書が入っています。ファイル・キャビネットの保管場所によっては、これらの文書を再び取り出してファイルすることは時間がかかり、困難である場合があります。Content Manager for iSeries を使用すれば、文書を、実際のファイル・キャビネットに対応する索引クラスに電子的に保管することができます。索引クラスには、文書だけでなくフォルダーを保管することができます。iSeries は現在、ファイル・キャビネットおよび索引フォルダーの管理を提供できます。

Content Manager for iSeries ソリューションの計画

Content Manager for iSeries ソリューションについて効果的に計画するには、現在の情報管理要件を分析する必要があります。現行システムに関するデータを収集し、ソリューションの要件の概要を調べた後、所属する企業の特定の要件に合った Content Manager for iSeries の実装を設計することができます。

現在の環境の分析

所属する企業が現在の環境で、どのような方法で情報を管理するかを決定する場合に考慮しなければならない事項をいくつか以下に示します。

- 電子的に保管する場合のオブジェクトの平均サイズ
- 各オブジェクトの方向 (横長または縦長)
- ユーザーのサーバーに現在保管されているオブジェクトの数
- 今後保管を予定しているオブジェクトの数
- オブジェクトと関連情報を索引付けする現在の方法
- オブジェクトにすでに含まれている既存のアプリケーションに役立つ情報
- 当該情報を使用するビジネス・プロセス
- オブジェクトの有効期間
- 企業がオブジェクトを最新表示する必要がある頻度
- 活動状態でなくなったオブジェクトを、企業が保存する必要がある期間
- 誰がオブジェクトを使用するか
- オブジェクトへアクセスする必要がある人数
- オブジェクトへアクセスする人がいる場所

- オブジェクトが使用される作業
- オブジェクトの宛先
- オブジェクトに関する情報を保管するために必要な場所の数
- 所属する企業が毎日保管する必要がある追加のオブジェクト数
- 毎日更新する必要があるオブジェクトに関する情報の量
- 同じオブジェクトまたは同じオブジェクトに関する情報をアクセスする頻度

上記の情報を前もって入手すれば、Content Manager for iSeries システムに関して企業に必要なサーバーの数とサイズ、その位置、各サーバーへのアクセスが必要なクライアントやユーザーの数などを決定する際に役立ちます。

Content Manager for iSeries システムの構成の選択

Content Manager for iSeries システムをインストールするには、Content Manager for iSeries のどのコンポーネントが企業の要件に最も適合するかを理解し判断する必要があります。表 2 は、Content Manager for iSeries 製品のコンポーネントについて示しています。Content Manager for iSeries システムを構築するために、これらのコンポーネントを組み合わせて使用することができます。

表 2. Content Manager for iSeries のコンポーネント

コンポーネント	説明
Content Manager for iSeries ライブラリー/オブジェクト・サーバー	<ul style="list-style-type: none"> • ライブラリー・サーバーをインストールするには、インストール・ライセンス・プログラムのメニューまたはコマンドから、ベース・プログラム (*BASE) とオプション 1 (Option 1) をインストールする必要があります。 • ライブラリー・データを管理します。 • 索引情報を維持します。 • オブジェクト・サーバーに保管されているオブジェクトへのアクセスを制御します。
Content Manager for iSeries オブジェクト・サーバー (オプション)	<ul style="list-style-type: none"> • これは、インストール・ライセンス・プログラム・リストのオプション 2 (Option 2) です。重要: iSeries を 2 次プロセッサとして使用する予定がない場合は、オプション 2 (Option 2) をインストールしないでください。 • ライブラリーに保管されているマルチメディア・オブジェクトが入っています。 • お客様のアプリケーションで 2 次オブジェクト・サーバーを使用する予定がある場合は、オプション 2 (Option 2) は 2 つ目の iSeries にのみインストールします。2 つ目の iSeries ではライブラリー処理は行わず、必ずストレージ環境としてのみご使用ください。
アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を含む Content Manager for iSeries クライアント	<ul style="list-style-type: none"> • ライブラリーおよびオブジェクト・サーバーに保管されている情報に、ユーザーがアクセスできるようにします。 • Visual Basic をサポートします。 • 高水準の API を提供します。これにより、Windows 2000 および Windows XP ワークステーションでの画像アプリケーションの開発、もしくはこれらの環境で動作するアプリケーションとの統合が行えます。

表 2. Content Manager for iSeries のコンポーネント (続き)

コンポーネント	説明
Content Manager for iSeries ワークフロー・ビルダー (オプション)	<ul style="list-style-type: none"> Content Manager for iSeries の別途注文できる機能。 システム管理者またはビジネス・プロセスの所有者が作業プロセスを定義し、更新できるようにします。
光ディスク・システム (オプション)	Content Manager for iSeries オブジェクト・サーバーからオブジェクトをアーカイブします。

ライブラリー・サーバー

Content Manager for iSeries ライブラリー・サーバーは、使用しているライブラリー・サービス・アプリケーションのインストール先の iSeries です。ライブラリー・サーバーは 1 つだけ使用することができます。ライブラリー は、文書フォルダーおよびその属性を、要求された作業に基づいて管理するデータベースです。ライブラリー・サーバーは索引付け情報を管理し、Content Manager for iSeries オブジェクトのストレージを管理します。1 次オブジェクト・サーバーはライブラリー・サーバーに組み込まれています。

Content Manager for iSeries をインストールする場合、ライブラリー・サーバーとオブジェクト・サーバーを組み合わせてインストールします。Content Manager for iSeries は、1 つのライブラリー・サーバーと 1 つまたは複数のオブジェクト・サーバーをサポートします。2 つ目のオブジェクト・サーバーのサポートが必要と判断した場合、ライブラリー・サーバー以外の iSeries システム・サーバーに Content Manager for iSeries 2 次プロセッサをインストールする必要があります。1 次ライブラリー・サーバーにオプション 2 (Option 2) (Content Manager for iSeries オブジェクト・サーバー) をインストールしないでください。オプション 2 (Option 2) は 2 次プロセッサ専用です。

ライブラリー・サーバーは、「Content Manager for iSeries」と「IBM Content Manager for iSeries ライブラリーおよびオブジェクト・サーバー」という 2 つのパッケージとして別々に出荷されており、それぞれ別注文になります。これらの両方が必要です。ライブラリー・サーバーの定義に関する情報については、「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

オブジェクト・サーバー

Content Manager for iSeries オブジェクト・サーバーは、システムに保管されるオブジェクトのリポジトリです。ユーザーは、オブジェクト・サーバーによって転送される要求を介して、オブジェクト・サーバー内のオブジェクトを保管および検索します。オブジェクト・サーバーは、Content Manager for iSeries ライブラリー・サーバー、オブジェクト・サーバー、およびオブジェクト・ディレクトリー・プロファイルを介して定義したストレージ管理の定義に基づいて、オブジェクトを保管します。

オブジェクト・サーバーは、「Content Manager for iSeries (インストール・ライセンス・プログラム・リストの *BASE)」と「IBM Content Manager for iSeries オブジェクト・サーバー (インストール・ライセンス・プログラム・リストのオプション 2 (Option 2))」という 2 つのパッケージとして別々に出荷されており、それぞれ別注文になります。これらの両方が必要です。オブジェクト・サーバーの定義に関

する情報については、27 ページの『独立型オブジェクト・サーバーの構成』および「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

クライアント

Content Manager for iSeries クライアントは Windows 2000 または Windows XP ワークステーションにインストールできます。クライアント・アプリケーションによって、ユーザー要求は、Content Manager for iSeries オブジェクト・サーバーに保管されているオブジェクトにアクセスすることができます。さらに、Content Manager for iSeries ライブラリー・サーバーに保管されている項目情報も表示することができます。

詳細については、「*IBM Content Manager for iSeries: Windows クライアント・スタートアップ・ガイド*」を参照してください。

ワークフロー・ビルダー

Content Manager for iSeries 製品のワークフロー・ビルダー機能を使用すると、作業プロセスの図形表示ができます。プロセスとは、ワークフロー内での項目の処理のしかたを指示する一連のプロシージャールールと規則です。ワークフローとは、フォルダーと文書の処理を自動化するシステムで、これにより、文書や文書グループを個別に転送するために必要な手作業の大部分が不要になります。

光ディスク・システム

光ディスク記憶装置は、Content Manager for iSeries システムのオプションのコンポーネントです。文書をアーカイブするために、他のタイプのストレージ・メディアに代えて、光ディスク記憶装置を使用することができます。現在の処理に必要なでない文書を、DASD 記憶装置から光ディスク記憶装置に移動することができます。移動した文書が再び必要になったら、光ディスク記憶装置から DASD 記憶装置に戻すことができます。光ディスク記憶装置を使用する利点は、小さいスペースに低コストで大量の情報を格納できることです。光ディスク記憶装置は、ローカル・エリア・ネットワークを介して接続すること (LAN 接続) も、iSeries サーバーに直接接続すること (直接接続) もできます。

第 2 章 Content Manager for iSeries システムの計画と設計

Content Manager for iSeries システムをインストールするには、以下に基づいて、Content Manager for iSeries のどのコンポーネントをインストールすべきかを決定する必要があります。

- ハードウェア
- 通信プロトコル
- ライセンスに関する考慮事項 (ライセンス順守のモニター)
- 環境
- システム設計

たとえば、文書に大量のストレージが必要なため、複数の Content Manager for iSeries オブジェクト・サーバーを使用する必要があるかもしれません。また、文書をオブジェクト・サーバーから光ディスク・システムにアーカイブする必要があると判断するかもしれません。また、あるクライアントは Windows XP であり、ほかのクライアントは Windows 2000 である場合もあります。

ハードウェア・コンポーネントの計画

ライブラリー・サーバー機能とオブジェクト・サーバー機能の両方を実行するために 1 つの iSeries を定義することができます。ライブラリー・サーバー、オブジェクト・サーバー、またはその両方を選択する時に、以下について考慮してください。

iSeries スペース

近い将来のプログラム・ファイルと文書に必要なスペース。必要な文書の数およびスペースは、2 つ目のオブジェクト・サーバーが必要かどうかを判断する場合に役立ちます。複数のオフサイト・ロケーションが文書を保管し検索する場合、各サイトに 1 つのオブジェクト・サーバーを置くことを考慮する必要があるかもしれません。

iSeries システムのタイプ

システムのメモリーと処理能力が大きければ大きいほど、マルチタスキングや並行して実行するバックグラウンド処理および対話式処理などの複数の Content Manager for iSeries の処理能力が高くなります。

光ディスク・システム

光ディスク・システムを直接接続または LAN 接続の光ディスク・システムとして iSeries に接続することができます。光ディスク・システムを iSeries ライブラリー・サーバーまたはオブジェクト・サーバーに直接接続することができます。Content Manager for iSeries は、消去可能な光ディスク技術と 1 回書き込み/複数読み取り (WORM) 光ディスク技術を提供する光ディスク・デバイスおよび多機能光ディスク・デバイスをサポートします。多機能デバイスは、同じライブラリー内で消去可能ディスクと WORM ディスクの両方をサポートします。Content Manager for iSeries は、消去可能なボリュームを WORM としてサポートします。

光ディスク・システムについて計画する場合、以下について考慮してください。

iSeries システム上のスペースの可用性

スペースが制限されている場合、文書を光ディスクにアーカイブして、DASD (ここでは、オブジェクト・サーバー) から除去することを考慮する必要があるかもしれません。

文書の保存時間

文書に頻繁にはアクセスしないが、長時間維持する必要がある場合、光ディスクにアーカイブして、DASD から除去する必要があるかもしれません。

潜在的バックアップおよびリカバリー・メディア

DASD を使用して文書进行处理する間、文書を光ディスクに保管すれば、システム障害時に光ディスクから文書をリカバリーすることができます。

ワークステーション・クライアント

ワークステーションの数は、並行ユーザーの数に基づいて決まります。

ストレージ管理および光ディスク記憶装置の詳細については、「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

通信に関する計画

Content Manager for iSeries クライアントとサーバー間の通信のために SNA か TCP/IP のどちらかをサポートします。

• SNA 通信

通信に SNA を使用するには、APPC および通信用共通プログラミング・インターフェース (CPI-C) レベル 1.2 を実装する通信製品をワークステーションにインストールし、構成する必要があります。たとえば、eNetwork Personal Communications や Client Access™ /400 があります。

• TCP/IP 通信

通信プロトコルとして TCP/IP を選択すると、TCP/IP ソケット通信サポートを使用することになります。クライアントが TCP/IP を使用して通信できるようにするには、バックグラウンド・サーバー・ジョブを iSeries 上で開始する必要があります。詳細は、21 ページの『TCP/IP の構成』を参照してください。

通信の定義に関する詳細は、「*IBM Content Manager for iSeries: Windows クライアント・スタートアップ・ガイド*」を参照してください。

Content Manager for iSeries について

Content Manager for iSeries はクライアント/サーバー・アプリケーションです。ワークステーション・クライアントがすべての機能を駆動し、iSeries ライブラリー・サーバーがすべての処理を管理します。

Content Manager for iSeries は、クライアント/サーバー体系を介して実行できるオブジェクト管理システムがあります。Content Manager for iSeries クライアントは、

グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を提供するので、文書をシステム・ビューに表示して、処理、保管、および検索を行うことができます。

Windows XP および Windows 2000 クライアントでは、文書および情報の基本的な流れは単純です。文書をシステムに保管するときは、文書をディレクトリーからインポートするか、またはそのページをスキャンして収集します。その後、後で識別し検索する場合に役立つ情報を使用して、文書を索引付けすることができます。この時点で、文書を電子的に他のユーザーに転送することができます。他のユーザーは以下のことを実行できます。

- 文書を電子フォルダーに編成する
- 関連する文書およびフォルダーのグループを検索する
- 随時経路指定を使用して、追加の処理のために、文書またはフォルダーを他のユーザーに送信する
- 注釈を文書またはフォルダーに追加する
- 強調表示、注記、またはその他の注釈を追加して文書を変更する
- ワークステーション上で文書を印刷する
- 事前定義されたワークフロー・プロセス上に文書またはフォルダーを置く

ライセンス順守に関するモニターの計画

Content Manager for iSeries は、OS/400 ライセンス管理機能を使用してライセンスの使用を管理します。Content Manager for iSeries はユーザー別価格設定を実施しています。この場合、ライセンスは、製品へのアクセスを許可された並行ユーザーの数に基づいて付与されます。並行ユーザーは、Content Manager for iSeries にアクセスするすべてのユーザー、プログラム、ジョブであると定義されます。次に、その例を示します。

- 単一のジョブが複数のユーザーの要求を処理する場合、各ユーザーは並行ユーザーとみなされます。
- 単一のユーザー ID が複数の Content Manager for iSeries セッションにログオンする場合、各セッションは並行ユーザーとみなされます。

製品出荷時には、ユーザー数のデフォルトの上限はゼロに設定されています。

上限は、ICA (IBM Customer Agreement) に定義されたユーザー数を反映するよう変更する必要があります。13 ページの『第 3 章 Content Manager for iSeries のインストールとカスタマイズ』を参照してください。

システム・タスクに関する考慮事項

Content Manager for iSeries システムを設計する場合、以下についての考慮および計画も必要です。

- セキュリティー
- バックアップおよびリカバリー
- ストレージ管理
- データベースの編成および定義

セキュリティ・レベルの定義

Content Manager for iSeries 環境で定義したセキュリティ・レベルに基づいて、以下へのアクセスが可能になります。

- Content Manager for iSeries 自体
- 文書
- 機能

Content Manager for iSeries へのアクセス

Content Manager for iSeries をインストールすると、デフォルトのシステム管理者ユーザー ID とグループ・プロファイルが作成されます。これらは両方共、各 Content Manager for iSeries ライブラリー内のオブジェクトに対する *ALL 権限を持っています。Content Manager for iSeries ライブラリーはすべて、インストール・プログラムによってインストールされます。これらのライブラリーには *PUBLIC *USE アクセスが指定されますが、プログラム・ライブラリー内のプログラム・オブジェクトのサブセットには *PUBLIC *EXCLUDE が指定されます。*PUBLIC *EXCLUDE が設定されたオブジェクトとは、Content Manager for iSeries の外からは実行できないコマンドを持つ機能です。

Content Manager for iSeries 環境で作業している各ユーザーをグループ・プロファイルに割り当てることができます。固有のセキュリティ・アクセス手順がある場合には、ユーザーに Content Manager for iSeries オブジェクトに対する *ALL 権限があることを確認してください。インストール・プログラムが作成するユーザー ID の詳細については、13 ページの『第 3 章 Content Manager for iSeries のインストールとカスタマイズ』を参照してください。

文書へのアクセス

Content Manager for iSeries をインストールすると、インストール・プログラムがルーターのユーザー ID を作成し、それをグループ・プロファイルに関連付けます。ユーザーは、このユーザー ID を使用してルーターにサインオンできるので、同じユーザー ID がオブジェクト・ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを所有することができます。しかし、DASD に多くのオブジェクトを管理する計画であれば、iSeries の所有権の限界に到達しないようにするために、複数のルーター ID の使用を考える必要があるかもしれません。

Content Manager for iSeries オブジェクト・ディレクトリー・プロファイルを使用してオブジェクト・ディレクトリーを作成する場合、プロファイルを作成したユーザーがオブジェクト・ディレクトリーの所有者になります。また、パネルに入力したグループ・プロファイルはオブジェクト・ディレクトリーへの *ALL 権限を持ちます。

インストール・プログラムが作成するルーター ID の詳細については、13 ページの『第 3 章 Content Manager for iSeries のインストールとカスタマイズ』を参照してください。オブジェクト・ディレクトリーの作成の詳細については、「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

機能へのアクセス

Content Manager for iSeries の各ユーザーには、Content Manager for iSeries ユーザー・プロファイルが必要です。各ユーザー・プロファイルには特権セットが割り当てられます。ユーザー特権セットは、ユーザーが処理を許可される機能を定義しま

す。システム管理者は、特権セット・プロファイルを介して、各ユーザーが処理を許可されている機能を定義します。アクセス・リストを作成し、索引クラス、ワーク・バスケット、およびプロセスにそのアクセス・リストを関連付けることにより、ユーザーに割り当てる特権をさらに制御できます。アクセス・リストは、1 つまたは複数のユーザー ID かユーザー・グループ、およびアクセス・リストの中の各 ID またはグループに関連付ける特権セットで構成されます。ユーザー・グループは、単一の名前で定義する個々のユーザー ID で構成されます。特権セット、ユーザー・プロファイル、グループ、およびアクセス・リストの作成方法に関する詳細は、「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

バックアップおよびリカバリー

バックアップおよびリカバリーの方法を計画する場合、Content Manager for iSeries システムに統合される次のオブジェクトについて考慮してください。

- 文書
- 文書処理を管理する Content Manager for iSeries ファイル
- サポート対象の任意のカスタム・オブジェクト

リカバリー方法を計画する場合、これらのオブジェクトのバックアップを同期化した状態にすることを考慮して、障害の発生時にシステムを正常にリカバリーできるようにする必要があります。

バックアップの考慮事項

システムのバックアップを計画する場合に、考慮すべき事項をいくつか記載します。

1. Operational Assistant または SAVLIB *ALLUSR によるバックアップ手順では、“Q” で始まるライブラリーが保管されません。なぜなら、“Q” で始まるライブラリーは、現在システムによって IBM ライブラリーとして認識されているからです。したがって、QUSRVI ライブラリーについては、注意が必要です (iSeries ファイル・ライブラリーにこの名前を選択した場合)。このライブラリーは、SAVLIB QUSRVI コマンドを使用して、手動でバックアップする必要があります。
2. システムのライブラリーだけでなく、イメージもバックアップすることを忘れないでください。イメージの保管先は、iSeries のオブジェクト・ディレクトリーを定義したときに指定されています。以下のいずれかになっているはずで

QDLS

Root

QOpenSys

QLANSrv

イメージをバックアップするには、SAVDLO コマンドまたは SAV コマンドを使用します。詳しくは、iSeries の解説書を参照するか、または、IBM へお問い合わせください。

ストレージ管理

Content Manager for iSeries は、iSeries オブジェクト・サーバーを使用して分散ストレージ機能を提供するので、DASD ストレージ・スペースの管理に役立ちます。

Content Manager for iSeriesのプロファイルを使用すれば、文書がシステムに入力されたときにその文書を保管するオブジェクト・サーバーを指定することができます。

文書は以下のメディアに保管することができます。

- 結合されたライブラリーとオブジェクト・サーバー
- 1 つまたは複数の独立型オブジェクト・サーバー
- 光ディスク・システム

ストレージ管理システムの詳細については、「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

データベースの編成と定義

Content Manager for iSeries をインストールした後、Content Manager for iSeries 環境を構成する各プロファイルを定義することによって、環境を定義する必要があります。以下に示す環境を定義するプロファイルの詳細については、「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

- 特権セット
- ユーザー・プロファイル
- グループ
- アクセス・リスト
- キー・フィールド
- 索引クラス
- ワーク・バスケット
- コレクション
- サーバー
- オブジェクト・ディレクトリー
- ストレージ・クラス
- 光ディスク・システム

システムの設計

Content Manager for iSeries システムを設計するには、使用する計画のサーバー、ワークステーション、および光ディスク・システムからなるマップを作成し、それらを通信用リンクを使用して接続する方法を定義します。

システムを設計するには、以下のステップに従ってください。

1. 所属する企業内でシステムを使用するために必要な位置数を決定します。
2. システム内のライブラリー・サーバーの数、タイプ、および位置を決定します。
IBM 担当員との共同作業で、以下について決定します。
 - ライブラリー・サーバーのサイズ
 - 必要なオブジェクト・サーバーの数
 - 光ディスク・システムのサイズ (使用する場合)

以下についても考慮してください。

- 容量
- アクセスの頻度
- 応答の要件

- クライアントの位置
3. システム内の各ワークステーションの数、タイプ、および位置を決定します。一定の時間帯に使用しているシステムに同時にアクセスする必要があるユーザー数などのビジネス要件に基づいて、クライアント数を決定します。
 4. iSeries サーバー上の各ワークステーションのデバイスを定義します。この定義は、iSeries 上の AUTOCONFIG パラメーターを設定することにより実行できます。この設定によって、ユーザーが iSeries システムに初めてログオンした時点でワークステーションのデバイスが自動的に設定されるようになります。覚えのため、ワークステーションごとにデバイス名を記録しておいてください。

第 3 章 Content Manager for iSeries のインストールとカスタマイズ

この章では、インストールを開始する前に行う必要がある項目、およびハードウェア要件とソフトウェア要件の詳細について説明し、続いて Content Manager for iSeries のインストールとカスタマイズに関するステップごとの指示を示します。

始める前に

インストールを開始する前に、この章を読んで、次の作業を完了してください。

- OS/400 オペレーティング・システムの必要なバージョンをインストールし、最新の PTF を適用します。(『ハードウェアとソフトウェアの前提条件』を参照してください。)
- Content Manager for iSeries 環境には、1 つの Content Manager for iSeries ライブラリー/オブジェクト・サーバー、および複数の Content Manager for iSeries オブジェクト・サーバーを設定できます。

ハードウェアとソフトウェアの前提条件

表 3 では、クライアント・アプリケーションをインストールし、使用するのに必要なハードウェアが定義され、表 4 では、クライアント・アプリケーションをインストールし、使用するのに必要なオペレーティング・システム、ネットワーキング、およびディスク・スペースを示します。

表 3. IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントのハードウェア要件

コンポーネント	説明
プロセッサ	Intel Pentium® または同等のプロセッサ
RAM	64 MB 以上
ハード・ディスク	160 MB ハード・ディスク
ディスプレイ	VGA (800x600 解像度、256 色モード)
その他のハードウェア	<ul style="list-style-type: none">• CD-ROM リーダー (インストールのみ)• ネットワーク・アダプター (コンポーネントが複数のワークステーションにインストールされる場合)• ASPI 準拠の SCSI アダプターまたはスキャン• マウス

表 4. IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントのソフトウェア要件

コンポーネント	説明
オペレーティング・システム	次のいずれか: <ul style="list-style-type: none">• Windows 2000• Windows XP

表 4. IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントのソフトウェア要件 (続き)

コンポーネント	説明
ネットワーク通信	Windows とともにインストールされた TCP/IP
ディスク・スペース	<ul style="list-style-type: none"> クライアント・アプリケーション: 50 ~ 75 MB (選択するコンポーネントによって異なる) ツールキットのみ: 20 MB
その他	C ランタイム・ライブラリー - クライアント・ツールキットのために必要

Content Manager for iSeries ワークフロー・ビルダー

表 5 は、ワークフロー・ビルダーに必要なハードウェアを示しています。表 6 は、ワークフロー・ビルダーに必要なオペレーティング・システム、ネットワーク、およびディスク・スペースを示しています。

表 5. IBM Content Manager for iSeries ワークフロー・ビルダーのハードウェア要件

コンポーネント	説明
プロセッサ	Intel Pentium または同等のプロセッサ
RAM	64 MB 以上
ハード・ディスク	160 MB ハード・ディスク
ディスプレイ	VGA (800x600 解像度、256 色モード)
その他のハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> CD-ROM リーダー (インストールのみ) ネットワーク・アダプター (コンポーネントが複数のワークステーションにインストールされる場合) マウス

表 6. IBM Content Manager for iSeries ワークフロー・ビルダーのソフトウェア要件

コンポーネント	説明
オペレーティング・システム	次のいずれか: <ul style="list-style-type: none"> Windows 2000 Windows XP
ネットワーク通信	Windows とともにインストールされた TCP/IP

Content Manager for iSeries サーバー

表 7. サーバーのハードウェア要件

ハードウェア	最低要件
CPU	iSeries、Model 270

表 8. サーバーのソフトウェア前提条件

ソフトウェア	最低要件
オペレーティング・システム	OS/400 V5R1 またはそれ以降
光ディスク (オプション)	<ul style="list-style-type: none"> • 直接接続 3995: IBM 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー・サポート • LAN 接続 3995: なし

複数環境での考慮事項

複数環境とは、同一サーバー上にある、リリース・レベルが同じ複数の IBM Content Manager for iSeries のコピーを意味します。複数のオペレーティング・システムを指しているわけではありません。IBM Content Manager for iSeries をロードするための以下のステップは、インストールを計画している IBM Content Manager for iSeries 環境ごとに、1 度だけ実行する必要があります。これらのステップを実行するときは、そのつど、別のファイル・ライブラリー名を指定します。このようにすれば、単一のサーバー上で複数環境の IBM Content Manager for iSeries を動作させることができます (ただし、十分なストレージが必要)。

IBM Content Manager for iSeries ファイル・ライブラリーは、それぞれの IBM Content Manager for iSeries 環境ごとに固有のものでなくてはなりません。

単一の iSeries コンピューターに IBM Content Manager for iSeries の複数環境をインストールする場合は、以下のステップに従います。

- 光ディスクのパスとボリューム、フォルダー、またはサブディレクトリーを、各環境ごとに固有に定義する。
- 各環境の文書の保管先となるイメージ・フォルダーを固有に定義する。

Content Manager for iSeries のインストール

Content Manager for iSeries は、iSeries のスタック・メディアで出荷されます。

「ライセンス・プログラムの処理 (Work with Licensed Programs)」メニューを使用して、すべての製品コンポーネントを iSeries 上にロードしてください。このメニューから、Content Manager for iSeries の削除や更新など、必要なプログラム管理機能のすべてを実行できます。

QALWOBJRST を *ALL に設定します。この値は、インストール後に元の値に復元する必要があるため、ここで、インストール・チェックリストにこの値を記録してください。

「ライセンス・プログラムの処理 (Work with Licensed Programs)」メニューにアクセスするには、iSeries コマンド行で GO LICPGM と入力し、使用している iSeries システムに適した Content Manager for iSeries の各国語バージョンを選択します。GO LICPGM コマンドをよくご存じない方は、iSeries の「Software Installation」資料を参照してください。

「ライセンス・プログラムのインストール (Install Licensed Program)」パネルから、「オプション 1 (option 1)」、「ライセンス・プログラム 5722VII1 (Licensed Program 5722VII1)」、および「製品オプション *BASE (Product Option *BASE)」を

指定して、Content Manager for iSeries 製品の基本オプションをインストールします。基本オプションが正常にインストールされたら、「ライセンス・プログラムのインストール (Install Licensed Program)」パネルから、「オプション 1 (option 1)」、「ライセンス・プログラム 5722VII (Licensed Program 5722VII)」、および「製品オプション 0001 (Product Option 0001)」を指定して、Content Manager for iSeries 製品のオプション 1 をインストールします。Content Manager for iSeries ライブラリー・サーバーとオブジェクト・サーバーの完全なコピーを使用システム上に作成するには、両方のオプションを正常にインストールする必要があります。iSeries が 2 次プロセッサ (オブジェクト・サーバーのみ) 以外の場合には、Content Manager for iSeries オプション 2 (Option 2) を決してインストールしないでください。製品が正常にインストールされたら、インストール後コマンド EKDPOST を実行して、この製品を使用するユーザーの作業環境を定義します。

インストール後処理

Content Manager for iSeries のインストールが完了した後、アプリケーション環境を適切に定義するために完了しなければならないインストール後の作業がいくつかあります。

インストール後処理を開始するには

EKDPOST コマンドを実行すると、新しいリリース用にユーザー環境が設定されます。インストール後処理を開始するには、以下の知識が必要です。

1. PTF は、EKDPOST コマンドを実行する前に、製品に適用する。
2. EKDPOST コマンドを実行するには、QSECOFR プロファイルを使用する。
3. サインオンしたら、QVI ライブラリーをライブラリー・リストに追加する (ADDLIBLE コマンドを使用して)。

Content Manager for iSeries のインストール後処理コマンド

Content Manager for iSeries のインストール後処理コマンドは以下のように作業環境を作成します。

- 作業データベース・ライブラリーを作成します。
このライブラリーには、Content Manager for iSeries 環境を制御するために必要なすべてのファイル、および Content Manager for iSeries によって作成されるすべてのオブジェクトが入ります。デフォルト・ライブラリー名は QUSRVI です。
- QSYSWRK サブシステムに自動開始ジョブ・エントリーを追加します。このジョブは、サブシステムが始動すると自動的に開始され、Content Manager for iSeries の初期化を実行します。Content Manager for iSeries バックグラウンド・プロセッサが実行されるサブシステムについて、この自動開始ジョブ・エントリーを定義する必要があります。デフォルトでは、このサブシステムは QSYSWRK です。QSYSWRK 以外のサブシステムで IBM Content Manager for iSeries バックグラウンド・プロセスを実行するときは、QSYSWRK 内のエントリーと同じパラメーターを使用してこのサブシステムに自動開始ジョブ・エントリーを追加し、その後、QSYSWRK サブシステムからそのエントリーを削除する必要があります。
- OS/400 登録機能を用いて Content Manager for iSeries のホスト出口点を登録します。

- Content Manager for iSeries をはじめてインストールする場合は、以下のものを作成します。
 - デフォルト・システム管理者
 - デフォルト・グループ・プロファイル
 - デフォルト出力キュー

このコマンドを実行するには、コマンド行で EKDPOST と入力して F4 を押しします。このコマンドのパラメーターの定義は、以下のとおりです。

表9. パラメーター

パラメーター	必須/オプション・パラメーター	定義
インストールのタイプ	必須	このパラメーターは、新規インストールまたは既存の環境に対するインストールのどちらであるかを指定するために使用します。 1 = 新しい環境 2 = 既存の環境 ¹
環境	必須	このパラメーターは、単一の環境をインストールするのか、あるいは複数の環境を同じサーバー上にインストールするのかを指定するために使用します。 1 = 単一の環境をインストール 2 = 複数の環境を同じサーバー上にインストール
Content Manager for iSeries ファイル・ライブラリー	必須	複数の環境をインストールする場合、または F10 を押した場合に、このパラメーターが表示されます。 それぞれの環境ごとに固有のファイル・ライブラリーがなければなりません。 既存の環境の場合は、既存のファイル・ライブラリー名 (通常は EKDLIBFIL) をそのまま使用することもできます。その場合、既存のファイル・ライブラリー名をこのパラメーターに入力してください。

表9. パラメーター (続き)

パラメーター	必須/オプション・パラメーター	定義
ファイル・ライブラリー	インストールのタイプが 2 (既存) の場合は必須。	<p>マイグレーション中のファイル・ライブラリーの名前。</p> <p>上記フィールドの Content Manager for iSeries ファイル・ライブラリーの名前とこの名前が同じ場合、ライブラリー名は変更されません。</p> <p>Content Manager for iSeries ファイル・ライブラリー・フィールドの名前とこのライブラリーの名前が異なる場合は、このライブラリーの名前が Content Manager for iSeries ファイル・ライブラリー・フィールドの名前にリネームされます。</p>
リモート・ロケーション	独立型オブジェクト・サーバー・インストール・システムの場合は必須	2 次オブジェクト・サーバー環境をインストールする場合、このパラメーターが表示されます。これは、1 次ライブラリー/オブジェクト・サーバーの位置の名前です。
リモート・ライブラリー	独立型オブジェクト・サーバー・インストール・システムの場合は必須	2 次オブジェクト・サーバー環境をインストールする場合、または F10 を押した場合に、このパラメーターが表示されます。これは、この 2 次オブジェクト・サーバーに関連した 1 次ライブラリー/オブジェクト・サーバー上のファイル・ライブラリーの名前です。
3 文字の接頭部	オプション。デフォルト接頭部 (QVI) がすでに使用されている場合は必須	<p>複数の環境をインストールするときに新しい環境に対して、または F10 を押した場合に、このパラメーターが表示されます。</p> <p>これは、ジョブ記述、グループ・プロファイル、システム管理者プロファイルなどのユーザー固有の新しいオブジェクトを作成するために使用される 3 文字の接頭部です。</p>
<p>注:</p> <p>1. VI/400 V4R3 または VI/400 V5R1 からのマイグレーションは、サポートされているマイグレーション・パスです。マイグレーション・パスは、ファイル・ライブラリーの EKDVERSION データ域によって決定されます。</p>		

インストールの完了

次の処理を行うと、インストールが完了します。

- Content Manager for iSeries アプリケーションとインターフェースをとる iSeries ユーザー・プロファイルを作成するかまたは変更します。
- 権限を Content Manager for iSeries ライブラリーに割り当てます。
- TCP/IP について構成します。
- Content Manager for iSeries アプリケーション・プロファイルを作成します。
「IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド」を参照してください。

ユーザー・プロファイルの作成または変更

デフォルトのユーザー・プロファイル

新規インストールの場合は、インストール後プロセス中に次のユーザー・プロファイルが作成されます。

- QVIGROUP — デフォルト・グループ・プロファイル
- QVIADMIN — デフォルト・システム管理者
- QVIOWNER — オブジェクト所有者

インストールの開始時点で 3 文字の接頭部の入力を指示された場合、デフォルトのプロファイルは xxxGROUP および xxxADMIN です。ここで、xxx は、入力した 3 文字の接頭部を表します。

Content Manager for iSeries は、データ・キュー、データ域、フォルダー、およびファイルなどのオブジェクトを iSeries 上に作成することができます。インストール・プログラムはインストール時にユーザー ID QVIOWNER を作成します。このユーザー ID には、iSeries にインストール済みの Content Manager for iSeries オブジェクトだけでなく、Content Manager for iSeries が対話式に作成するオブジェクトもあります。QVIOWNER は最小限の権限しか持っていないので、アプリケーションでは使用できません。

インストール・プログラムが作成するユーザー・プロファイルのパスワードは、*NONE に設定されます。QSECOFR 権限を使用してシステムにサインオンする時、デフォルトのシステム管理者ユーザー・プロファイルにパスワードを割り当てて、使用している Content Manager for iSeries プロファイルの定義に使用できるようにする必要があります。QSECOFR は許可ユーザーとして Content Manager for iSeries に定義されていないので、デフォルトのシステム管理者ユーザー ID を使用して、初期プロファイルをセットアップする必要があります。

Content Manager for iSeries で使用するための追加ユーザー・プロファイルの定義

ユーザー・プロファイルは、Content Manager for iSeries と対話するユーザーごとに定義する必要があります。表 10 に定義されている特性を使用して、そのプロファイルを作成することが必要です。

ユーザー・プロファイルの定義に使用できるデフォルト・オブジェクトが、インストール後プロセスによって作成されます。それらのオブジェクトを以下に示します。

- QVIJOB - デフォルト・ジョブ記述

- QVIOUTQ - デフォルト出力キュー
- QVIGROUP - デフォルト・グループ・プロファイル

インストールの開始時点で 3 文字の接頭部の入力を指示された場合、デフォルトのプロファイルは xxxJOBDD、xxxOUTQ、および xxxGROUP です。ここで xxx は、入力した 3 文字の接頭部を表します。

表 10. Content Manager for iSeries のユーザーに必要な特性

パラメーター	特性	値
ユーザー・クラス	ユーザー	*USER (最低限)
	システム管理者	*SYSOPR (最低限)
特殊権限	ユーザー	*JOBCTL
	システム管理者	*JOBCTL *SAVSYS *SECADM *SPLCTL
ジョブ記述	ライブラリー・リスト	QTEMP QUSRVI QVI QGPL QOPTICAL (オプション) QSYS2 (オプション) 光ディスクがある場合は、23 ページの『第 4 章 光ディスク記憶装置の計画』を参照してください。
	ジョブ・キュー	QSYS/QSYSNOMAX これにより、Content Manager for iSeries のバックグラウンド・ジョブが QSYSWORK サブシステムで開始されます。
初期メニュー	システム管理者	QVI/CM

既存 Content Manager for iSeries のユーザー・プロファイルの変更

V4R3 からアプリケーションをアップグレードしようとしている既存の Content Manager for iSeries ユーザーは、WAF 機能を使用しない場合は、以下のようにジョブ記述を変更する必要があります。

- 新しいライブラリー・リストを反映する必要があります。5 つあったライブラリーは、現在は 2 つ、つまり QVI と QUSRVI (またはマイグレーション後に指定したファイル・ライブラリー名) になります。
- 対話式検索などのバックグラウンド・ジョブの開始を予定している場合は、ジョブ記述ジョブ・キューを QSYS/QSYSNOMAX に変更してください。

権限の割り当て

権限の割り当てには、GRTOBJAUT (オブジェクト権限認可) コマンドの使用も含まれます。Content Manager for iSeries でまだ定義されていないユーザー・プロファイルごと、またはグループ・プロファイルごとに以下のコマンドを入力してください。ここで、**library** はインストールしたライブラリーの名前であり、**profile** はグループ・プロファイルまたはユーザー・プロファイルの名前です。

```
GRTOBJAUT OBJ(QUSRVI/*ALL) OBJTYPE(*ALL) USER(profile) AUT(*ALL)
GRTOBJAUT OBJ(QSYS/QUSRVI) OBJTYPE(*LIB) USER(profile) AUT(*ALL)
```

QVI の場合

```
GRTOBJAUT OBJ(QVI/*ALL) OBJTYPE(*PGM) USER(profile) AUT(*ALL)
```

TCP/IP の構成

IBM Content Manager for iSeries クライアントと IBM Content Manager for iSeries API を使用するすべてのワークステーション・アプリケーションに関して、TCP/IP がソケットを使用することによってサポートされています。通信に TCP/IP を使用する場合、この項で説明する構成を実行してください。

まずはじめに、TCP/IP サーバー・ジョブが使用できるユーザー・プロファイルを作成する必要があります。このプロファイルは次のコマンドを使用して作成します。

```
CRTUSRPRF USRPRF(QVITCP) USRCLS(*SECADM) INLMNU(*SIGNOFF) +
SPCAUT(*ALLOBJ) JOB(QVIJOB) GRPPRF(QVIGROUP) PASSWORD(*NONE)
```

*SIGNOFF の初期メニューを指定すると、サインオンが防止されることにより、ユーザー ID の安全性が保証されます。このユーザー ID については、セキュリティー管理者権限 (*SECADM) および全オブジェクト権限 (*ALLOBJ) が必要です。必要な Content Manager for iSeries ライブラリーがバックグラウンド・ジョブのライブラリー・リストに必ず入るようにするには、デフォルトのジョブ記述、QVIJOB を使用してください。

クライアントがソケット通信サポートを使用して通信できるようにするには、バックグラウンド・サーバー・ジョブを iSeries 上で開始する必要があります。このバックグラウンド・ジョブの開始を単純化するには、次のようにして事前開始ジョブ・エントリーを定義します。

```
ADDPJE SBS(QSERVER) PGM(QVI/QVI400)
USER(QVITCP) THRESHOLD(1) ADLJOBS(0) JOB(QVI400)
INLJOBS(1) MAXUSE(*NOMAX) CLS(*LIBL/QINTER)
```

ジョブ数は 1 に設定する必要があります。ユーザーのアプリケーションに適したサブシステムとクラスを選択してください。

事前開始ジョブ・エントリーに定義されているプログラム QVI400 は、Content Manager for iSeries 用 TCP/IP 通信サポートに必要なバックグラウンド・ジョブを開始します。ジョブは、選択したサブシステムの下に QVI400 として現れます。オペレーティング・システムのレベルに応じて QVI400 または QVI400SRV というジョブ名で、このサーバー・ジョブの追加インスタンスが作成されます。ワークステーションから要求を受信すると、待機中のサーバー・インスタンスにソケットが渡され、別のサーバー・ジョブが作成されて次のワークステーション要求に備えます。

ライブラリー QVI のファイル QCLSRC 内のメンバー QVI400 には、事前開始ジョブ・エントリーに定義されているプログラムのソース・コードが入っています。そのソース・コードには、サーバー・ジョブに接続するために使用されるポート番号の値が含まれています。デフォルトのポートは 31015 です。別のポートを使用したい場合は、そのポート番号を変更し、バックグラウンド・サーバー・ジョブを開始する前にこのプログラムを再コンパイルしてください。

バージョン 4 リリース 1 環境の削除

以下のライブラリーは、Content Manager for iSeries では使用されていません。これらは、サーバーから削除できます。

- プログラム・ライブラリー (デフォルト名: EKDLIB)
- テキスト・ライブラリー (デフォルト名: EKDLIBTXT)
- 出口ライブラリー (デフォルト名: EKDEXIT)
- API ライブラリー (デフォルト名: EKDAPI)
- GPL ライブラリー (デフォルト名: EKDGPL)

重要

ワークフォルダー適用業務プログラム、バージョン 4 リリース 1 環境を続けて使用する場合は、バージョン 4 リリース 1 ライブラリーを削除しないでください。しかし、Content Manager for iSeries のこのバージョンとの互換性を確保するには、プログラム一時修正 (PTF) が必要です。

第 4 章 光ディスク記憶装置の計画

この章では、Content Manager for iSeries を IBM 3995 光ディスク・ライブラリーと一緒に使用するためのカスタマイズ方法について説明します。

始める前に

LAN A23 型を除いて、3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバーのインストールは特別に訓練されたハードウェア・サービス要員のみが行う必要があります。インストールおよび構成の詳細については、光ディスク・ドライブに付いている資料を参照してください。

Content Manager for iSeries と共に使用するためのセットアップの完了

3995 をインストールし、iSeries との通信を行ったならば、この項での説明に従って以下の作業を行い、セットアップしてください。

1. 3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー用に Content Manager for iSeries をカスタマイズする
2. 3995 用に光ディスク・ディスク・カートリッジを追加し初期化する
3. 直接検索用に LAN 接続光ディスクをセットアップする (オプション)
4. 直接接続のパフォーマンスについて考慮する (オプション)
5. 光ディスク記憶装置に文書を保管できるかどうかを検査する

3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー用の Content Manager for iSeries のカスタマイズ

3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバーにアクセスするために、Content Manager for iSeries をカスタマイズするには、システム管理者は、以下の Content Manager for iSeries プロファイルに光ディスク・システムを定義する必要があります。

Optical system profile (光ディスク・システム・プロファイル)

光ディスク構成を定義する

ストレージ・クラス・プロファイル

オブジェクトの保管方法を定義する

Collection profile (コレクション・プロファイル)

オブジェクトを特定のストレージ・クラスに関連付ける

プロファイルの保守については、「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

システム管理者によって、光ディスク・システムが Content Manager for iSeries に定義されたら、次に Content Manager for iSeries のユーザーに以下の権限があることを確認してください。

- 文書を格納し検索するための光ディスク・ライブラリーへのアクセス
- Optical Library Dataserver Support/400 に対する権限

光ディスク・カートリッジの追加および初期化

Content Manager for iSeries ストレージ・クラス・プロファイルに指定した情報に基づいて、3995 内の光ディスク・カートリッジを初期化する準備ができます。さらに、各ストレージ・クラス・プロファイルの定義に従って、最初の光ディスク・ディレクトリーとサブディレクトリーを作成する必要があります。Content Manager for iSeries は後続のディレクトリーとサブディレクトリーを自動的に作成します。これらのステップの完了に関する指示については、光ディスク・ドライブに付いている資料を参照してください。

LAN 接続光ディスクから直接表示するためのワークステーションのセットアップ

光ディスクから文書を iSeries DASD にコピーせずに、直接表示し印刷するには、各ワークステーションでコマンド・プロンプトから NET USE H:¥¥IBM3995¥¥ALIAS と入力します。ここで、*H* は、LAN 接続 3995 に関する Content Manager for iSeries 光ディスク・システム ID プロファイルに定義済みの特定の光ディスク・システム ID を表します。IBM3995 はコンピューター名です。

直接接続のパフォーマンスの考慮点

Content Manager for iSeries および直接接続 3995 光ディスクの両方のユーザーが、ファイル属性のコピーを選択しないことによって、パフォーマンスを向上することができます。これらの属性は、直接接続 3995 上に保管されている文書ごとに光ディスクに書き込まれます。しかし、Content Manager for iSeries 内の光ディスク保管機能と光ディスク検索機能は、これらのファイル属性を使用しないので、属性を光ディスクへコピーしないように指定することができます。これを行うには、光ディスク・ドライブに付いている資料を参照してください。

テスト文書による光ディスク記憶の検査

光ディスク記憶の検査を行うには、Content Manager for iSeries を使用してテスト文書をスキャンし、Content Manager for iSeries ストレージ管理を使用してテスト文書を光ディスク・サブシステムに保管します。このテストを始める前に、必ず複数の光ディスクをフォーマットしておいてください。

テストを実行するには、以下のステップに従ってください。詳しくは、「*IBM Content Manager for iSeries: Windows クライアント・スタートアップ・ガイド*」(スキャン関連)、および「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。

1. 有効な Content Manager for iSeries ユーザー・プロファイルを使用して iSeries システムにサインオンします。テスト・データをスキャンしてください。スキャンするテスト文書に使用する索引クラスに関するコレクション・プロファイルで、「**光ディスクへの保管 (Store on optical)**」が Yes に設定され、光ディスク記憶方式が 2 に設定され、ストレージ・クラスの光ディスク・システム ID が所定の 3995 を指していることを確認します。
2. ストレージ・クラスまたは光ディスク・システムが、テストしたいライブラリー (1 つまたは複数) に保管するように設定されているかどうかを検査します。

3. Content Manager for iSeries 光ディスク保管プロセッサを開始して、3995 データ・サーバーへの保管操作を行います。保管プロセッサは、遅延待ち状態に入る前で、保管要求レコードが存在する間は活動状態のままです。
4. 保管要求がすべて処理されたかを確認します。サーバー上の EKD0080 エラー・ファイル調べて、エラーによって 3995 が遅延待ち状態になっていないことを確認します。
 - a. 動的コンソールで、「**ボリュームの操作 (Volume operations)**」メニューを選択してください。
 - b. 必要なボリューム、フォルダー、およびサブディレクトリーを選択して、保管された文書をすべて表示してください。
5. 光ディスクへの保管が成功したかどうかを確認するには、光ディスクの各タイプに必要な処理を行ってください。詳細については、光ディスク・ドライブに付いている資料を参照してください。

付録. 独立型オブジェクト・サーバーの構成

インストール・プロセスのこの時点までに、以下の作業を完了させておく必要があります。

- Content Manager for iSeries ライブラリー (1 次) サーバーのインストール
- Content Manager for iSeries オブジェクト (2 次) サーバーのインストール

これらの作業が完了していたら、Content Manager for iSeries を独立型オブジェクト・サーバーとして構成する準備が整ったことになります。

始める前に

iSeries システムにユーザー・プロファイルがすでにある場合、新しいユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルを作成する必要はありません。ただし、既存ユーザーは、あらかじめ、ファイル、プログラム・ライブラリー (「1 次プロセッサ・インストール (Primary Processor Installation)」パネルで指定されている) にアクセスする許可が与えられている必要があります。さらにこれらのライブラリーは、ユーザーのライブラリー・リストに存在しなければなりません。iSeries コマンド行から GRTOBJAUT コマンドを使用して、ライブラリーへのアクセスを許可することができます。各ユーザーは、ADDIRE コマンドを使用してシステム・ディレクトリーに登録されている必要があります。

ユーザーが適切な許可をもっていない場合には、CHGUSRPRF iSeries コマンドを使用してユーザー・プロファイルを変更してください。ユーザー・プロファイルの詳細については、「*IBM Content Manager for iSeries: システム管理ガイド*」を参照してください。さらに、作成した任意のオブジェクト・ディレクトリーおよびサブディレクトリーにもアクセスできるようにする必要があります。アクセスできない場合には、適切な iSeries コマンドを使用して、復元または新しく作成されたディレクトリーおよびサブディレクトリーにアクセスできるようにします。

2 次サーバーに関する考慮事項

2 次サーバーに Content Manager for iSeries をインストールする前に、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

1. 2 次サーバーが、1 次プロセッサ上の Content Manager for iSeries ファイル・ライブラリーに対する DDM ファイル操作の権限が与えられていることを 1 次サーバー上で確認しなければなりません。権限の割り当てには、GRTOBJAUT (オブジェクト権限認可) コマンドの使用も含まれます。ファイル・ライブラリーに対する権限を認可するには、1 次サーバーにセキュリティー担当者としてログオンし、iSeries コマンド行に以下のコマンドを入力します。

```
GRTOBJAUT OBJ(QUSRVI/*ALL) OBJTYPE(*ALL) USER(profile) AUT(*ALL)
GRTOBJAUT OBJ(QSYS/QUSRVI) OBJTYPE(*LIB) USER(profile) AUT(*ALL)
```

library 1 次サーバーの Content Manager for iSeries のファイル・ライブラリーの名前 (たとえば、QUSRVI)。

profile 通信 (QCMN) サブシステムにデフォルト・ユーザーが定義されている場

合、そのデフォルト・ユーザーの名前を使用します。デフォルト・ユーザーが定義されていない場合には、QUSER を使用します。

- 1 次および 2 次サーバー・プロセッサ上のシステム日付が同じでなければなりません。
- 2 次サーバーは、IBM トークンリング・ネットワーク上でセットアップされ、1 次サーバーおよび他の 2 次サーバーと通信することができます。使用しているサーバーがセキュリティー・レベル 20 以上で稼働している場合、1 次 および 2 次プロセッサの装置記述の SECURELOC パラメーターは *YES 設定しておく必要があります。装置に APPN(*YES) も指定されている場合、このパラメーターは適用されません。この場合、それぞれのシステム上にリモート構成リストを作成し、リモート・ロケーション・パラメーターを *YES に設定するよう指定しなければなりません。これらのパラメーターは、サーバー間の通信を保護するために使用します。サーバー間の通信のセットアップおよびリモート構成リストの作成に関する詳細については、iSeries 資料を参照してください。

リモート構成リストを有効にするには、特定のリモート・ロケーションの装置すべてを、オフに変更しなければなりません。すべての装置をオフに変更したことを確認するには、iSeries コマンド行に WRKCFGSTS *DEV *LOC RMTLOCNAME(*remote location*) を入力します。ここで、*remote location* は保護ロケーションとして定義したいリモート・ロケーションの名前です。

- 2 次サーバーのトークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) のアドレスが、すべての Content Manager for iSeries クライアント・ワークステーションに設定されています。
- Client Access/400 が、すべてのサーバー (1 次および 2 次) およびすべてのワークステーションにインストールされています。
- Client Access/400 が、すべてのサーバー (1 次および 2 次) のアドレスを使用して更新されています。
- 各サーバーが、システム共用フォルダーとして Client Access/400 に割り当てられています。
- EKDTEMP という名前のライブラリーがすでにシステム上に存在している場合は、その名前を変更するか、またはそれを削除しなければなりません。

Content Manager for iSeries は、iSeries のスタック・メディアで出荷されます。

「ライセンス・プログラムの処理 (Work with Licensed Programs)」メニューを使用して、すべての製品コンポーネントを iSeries 上にロードしてください。このメニューから、Content Manager for iSeries の削除や更新など、必要なプログラム管理機能のすべてを実行できます。

「ライセンス・プログラムの処理 (Work with Licensed Programs)」メニューにアクセスするには、iSeries コマンド行で GO LICPGM と入力し、使用している iSeries システムに適した Content Manager for iSeries の各国語バージョンを選択します。

「ライセンス・プログラムのインストール (Install Licensed Program)」パネルで、「IBM Content Manager for iSeries」オプションと「オブジェクト・サーバー (Object Server)」オプションのそれぞれの隣にあるオプション 1 を指定してください。Content Manager for iSeries の完全なコピーを使用しているシステム上に作成

するには、両方のオプションを正常にインストールする必要があります。製品を正常にインストールした後、インストール後コマンド、EKDPOST を実行してユーザーの作業環境を定義します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J74/G4
555 Bailey Avenue
P.O. Box 49023
San Jose, CA 95161-9023
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを

経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM	iSeries
APPN	Operating System/400
Advanced Peer-to-Peer Networking	Operating System/2
Application System/400	OS/2
AS/400	OS/400
CICS	Redbooks
Client Access	

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。(Intel の商標の完全なリストについては、www.intel.com/sites/jp/tradmarx.htm を参照してください。)

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

用語集

この用語集では、本書および製品文書ライブラリーで使用される用語および省略語を定義します。ここにない用語もしくは省略語については、「*IBM コンピューティング辞典*」(ZZ88-0118-09)を参照してください。

この用語集では、次のような参照用語を使用しています。

- **対比** 反対の意味または実質的に異なる意味を持つ用語を参照することを示す。
- **参照** この用語が含まれている複合語を参照することを示す。
- **も参照** 同義ではないが、関連した意味を持つ用語を参照することを示す。
- **と同義** その用語と同じ意味で、それよりも望ましい用語が本用語集の中にあることを示す。

[ア行]

アーカイブ (archiving). バックアップ・ファイルおよび任意の関連したジャーナルを、通常、ある一定期間の間保存しておくこと。

アウトバウンド (outbound). アプリケーション・プログラムから装置への伝送に関する用語。インバウンド (*inbound*) と対比。

アクション・リスト (action list). ユーザーがワーク・バスケットの項目の処理時に実行できるアクションをまとめた承認リスト。このリストはスーパーバイザーが定義する。

後入れ先出し法 (LIFO) (Last In First Out (LIFO)). キュー手法の 1 つ。最後にキューに入れられた項目が次に取り出される。

アドミニストレーター (administrator). システム管理、制御、セキュリティ、さらにケースの統計、などの責務にある担当者。システム管理者と同義。

アプリケーション・プログラマー (application programmer). ユーザーのシステムのプログラミング・システムやその他のアプリケーションを設計するプログラマー。

アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) (Application Program Interface (API)). IBM システム制御プログラムまたはライセンス・プログラムとそのユーザーの間で正式に定義されたプログラミング言語インターフェース。

イメージ (image). (1) 1 ページの情報。つまり 1 枚の用紙をスキャンまたはデジタル化した結果。(2) ピクチャーから発したあるいは反射した光、音、電子放射、またはその他の放射を感知して生成したピクチャーの電子的表現。イメージは、既存のピクチャーを参照せずに、ソフトウェアで直接生成することもできる。ページ・イメージ (*page image*) も参照。

イメージ・オブジェクト・コンテンツ・アーキテクチャー (IOCA) (Image Object Content Architecture (IOCA)). イメージの交換と提供に使用される構成の構造化された 1 つの集合体。

イメージ・データ (image data). イメージを定義するラスタ情報の長方形配列。イメージ・データは、初めは処理をスキャンすることによって作成されることがある。

イメージ・ホスト (image host). スキャンされてインポートされた文書が永続的に保管されるシステム。光ディスク・ライブラリー・サブシステム (*optical library subsystem*) も参照。

イメージ・ワークステーション (image workstation). イメージ機能を実行できるプログラム式ワークステーション。

インスタンス (instance). プロセス内で作業パッケージが作成されること。プロセスが並列の経路から構成されているときは、1 つの作業パッケージについて複数インスタンスが存在する。

インバウンド (inbound). 外部情報源からアプリケーション・プログラムへの方向に流れる通信に関する用語。たとえば、端末からアプリケーション・プログラムへの伝送。アウトバウンド (*outbound*) と対比。

インポート (importing). 文書が、スキャン処理ではなくファイルを使用して iSeries に入力される処理。インポートされた文書は、DASD および光ディスク上にある Content Manager for iSeries に記憶しておき、スキャンされた文書と同様に、表示、印刷することができる。

エクスポート (export). データを、システム・フォルダーにある文書からファイルに書き込むために使用されるプロセス。エクスポート・プロセスおよびインポート・プロセスは、システム間で文書を転送するために使用することができる。

オブジェクト (object). (1) 処置が実行される項目。

単一の名前で参照されるデータの集合。システム内の最小単位。Content Manager for iSeries システムの場合、これは一般的に単一イメージの文書である。(2) オブジェクト・サーバーに保管される 2 進データのエンティティ。Content Manager for iSeries データ・モデルの場合には、オブジェクト は特に、文書の内容または部分を指す。

オブジェクト権限 (object authority). オブジェクトを使用または制御する権限。

オブジェクト・サーバー (object server). クライアント・アプリケーションが保管し、アクセスするオブジェクトまたは情報を物理的に保管する IBM Content Manager for iSeries のコンポーネント。

オブジェクト・ディレクトリー (object directory). イメージ文書保管に使用される iSeries オブジェクト・ディレクトリーを識別するために Content Manager for iSeries で用いられる制御ファイル。

オペレーター (operator). 日常的なシステム管理用タスクを処理する要員。

[カ行]

カートリッジ (cartridge). (1) 磁気テープ、繰り出しリール、および巻き取りリールからなる記憶装置。保護カバーに入っている。(2) 光ディスク記憶装置の場合、光ディスクを収めて保護するプラスチック・ケース。光ディスク・ドライブに挿入することができる。光ディスク (optical disk) およびカートリッジ保管スロット (cartridge storage slots) も参照。

カートリッジ保管スロット (cartridge storage slots). カートリッジが保管される光ディスク・ライブラリー内のエリア。

解像度 (resolution). コンピューター・グラフィックスにおいて、イメージの鮮明度の尺度。表示画面上の行および列の数、あるいは単位面積当たりのペル (画素) の数で表される。

回転 (rotate). 文書表示ウィンドウおよびスキャン表示ウィンドウの機能。方向付けは選択されたオプションに応じて決まる。

拡張対等通信ネットワーク機能 (APPN) (Advanced Peer-to-Peer Networking (APPN)). 直接は接続されていない複数の APPC システム間のネットワーク内でデータを経路指定するデータ通信サポート。

拡張プログラム間通信機能 (APPC) (Advanced Program-to-Program Communications (APPC)).

iSeries システム上のプログラムが互換性のある通信サポートをもつ他のシステムのプログラムと通信できるようにするためのデータ通信サポート。この通信サポートは、SNA LU セッション・タイプ 6.2 プロトコルを使用する iSeries 方式。

カスタマイズ (customization). データ処理インストール・システムまたはネットワークを特定のユーザーの要件に合わせて設計すること。

各国語サポート (NLS) (National Language Support (NLS)). 別の言語または地域の要件に合うように米国英語プロダクトを修正または変換すること。プロダクトの使用可能化または改良、およびプロダクトのノーメンクレーチャー、MRI、またはプロダクト関係文書の翻訳が含まれる。

キーワード (keyword). パラメーターを識別する名前または記号。

キー・フィールド (key field). その項目に関する情報のタイプを表す項目の属性。たとえば、顧客データ項目では、顧客の名前や社会保障番号をキー・フィールドにすることができる。

基本プロセッサ (primary processor). 処理装置のグループの中で、他のすべての装置が連絡するのに介在するメインの処理装置とその内部記憶装置。

グループ III (Group III). 国際電信電話諮問委員会 (CCITT) によって公表された規格に準拠した圧縮アルゴリズム。

経路 (route). ワーク・バスケット、コレクション・ポイント、および決定ポイントの間で作業パッケージを移動する一連のステップ。

決定ポイント (decision point). (1) 各作業パッケージにある特定の情報に応じて、作業パッケージの現行経路を続行するか、代替経路に切り替えるかを決定するポイント。決定ポイントは、変数名、値、および経路で構成されたテーブルである。(2) 決定ポイントは作業プロセスの部分である。たとえば、『新しいアカウントの開設』作業プロセスの一部である作業パッケージが、信用情報にもとづいて、承認を受けるか否かのポイントは、決定ポイントの一例である。

コレクション・ポイント (collection point) も参照。

現行の文書 (current document). 処理中の文書。

言語プロファイル (language profile). 時刻や日付形式など、地域に固有のパラメーターを定義するために、Content Manager for iSeries で使用される制御ファイル。

検索基準 (search criteria). Content Manager for iSeries の場合、ライブラリー・サーバーで実行される論理検索を表すために使用されるテキスト・ストリング。

項目 (item). (1) 保険請求書やフォルダーなど、物理的な文書を表すために合わせて指定する属性およびオブジェクト (イメージ・データ、注釈、ノート、その他の内容が含まれている 1 つまたは複数のファイル) のセット。文書 (document) も参照。(2) ライブラリー・サーバーが管理する情報の最小の単位。項目には、フォルダー、文書、ワーク・バスケット、またはプロセスがある。ライブラリー・サーバー機能の外では、オブジェクト (object) とも呼ばれる。

コレクション (collection). 通常、類似したパフォーマンス、使用可能性、バックアップ、および保持期間の特性をもつオブジェクトのグループに関連付けられるストレージ管理制御の定義。

コレクション・ポイント (collection point). (1) 処理を続行する前に、特定のイベントが発生、または同期化されるのを作業パッケージが待つポイント。(2) コレクション・ポイントは作業プロセスの一部である。たとえば、『新しいアカウントの開設』作業プロセスの一部である作業パッケージが、信用情報が検査されるまで待つ必要があるポイントは、コレクション・ポイントの一例である。決定ポイント (decision point) も参照。

混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー (MO:DCA) (Mixed Object: Document Content Architecture (MO:DCA)). 交換環境内および環境間において、アプリケーション同士の間でオブジェクト・データを交換できるようにするために開発された IBM のアーキテクチャー。

混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー・プレゼンテーション (MO:DCA-P) (Mixed Object: Document Content Architecture-Presentation (MO:DCA-P)). MO:DCA のサブセットとなるアーキテクチャー。Content Manager for iSeries ワークステーションに表示または印刷のために送る文書を入れるエンベロープとして利用される。

コンテンツ・クラス (content class). オブジェクトのデータ形式 (MO:DCA、TIFF、または ASCII など) を示す数字。

コンビニエンス・ワークステーション (convenience workstation). プリンターおよびスキャナーを備えている表示ワークステーション。

[サ行]

サーバー (server). ローカル・エリア・ネットワークにおいて、他のデータ・ステーションに機能を提供するデータ・ステーション。たとえば、ファイル・サーバー、プリント・サーバー、メール・サーバー、など。

先入れ先出し法 (FIFO) (First In First Out (FIFO)). キュー手法の 1 つ。キューに入っていた時間が最も長い項目が次に取り出される。

作業順序 (work order). ワーク・バスケットの中の作業パッケージの順序。

作業パッケージ (work package). 1 つの場所から別の場所に送られる作業。作業パッケージへのアクセスおよび処理はワーク・バスケットを介して行う。

作業プロセス (work process). 実行管理機能において、作業パッケージが流れる一連のステップ、イベント、および規則。つまり、作業パッケージの作業を進めるときに従う経路、コレクション・ポイント、および決定ポイントを組み合わせたものである。

索引クラス (index class). オブジェクトを保管したり、検索したりするためのカテゴリであり、キー・フィールドと呼ばれる属性の名前付きのセットで構成されている。Content Manager for iSeries で項目を作成するときは、アプリケーション・プログラムで、索引クラスを割り当て、そのクラスで必要とされるキー・フィールドを与える必要がある。索引クラスは、オブジェクトに関する、自動処理の必要条件とストレージ要件を識別する。

索引付け (index). 文書またはフォルダーを索引クラスに関連付けて、その索引クラスの必須キー・フィールドの値を指定すること。

サブシステム (subsystem). 2 次システムまたは従属システム、あるいはシステムのプログラミング・サポート部分であって、通常、制御するシステムと独立の操作または制御するシステムと同期した操作が可能なもの。

磁気記憶装置 (magnetic storage). 特定の素材の磁気特性を使用する記憶装置。

磁気テープ (magnetic tape). データを保管できる磁気層をもつテープ。

磁気テープ装置 (magnetic tape device). 磁気テープのデータを読み書きするための装置。

システム管理者 (system administrator). 光ディスク・ライブラリー・サブシステムおよび部門プロセッサを管理する担当者。システム管理者は、問題の判別および解決を援助する。アドミニストレーター (*administrator*) と対比。

システム管理ストレージ (SMS) (System-Managed Storage (SMS)). ストレージ管理に対する Content Manager for iSeriesのアプローチ。システムはオブジェクトの場所を決定し、オブジェクトのバックアップ、移動、空間、セキュリティなどを自動的に管理する。

システム・サポート・プログラム (SSP) (System Support Program (SSP)). 他のプログラムの実行およびディスプレイ装置およびプリンターなどの関連装置の操作を管理する IBM ライセンス・プログラムのグループ。SSP は、情報のディスクからディスクへのコピーなどの、共通タスクを実行するユーティリティー・プログラムも含む。

指定変更 (override). 以前のパラメーターまたは値を置き換える 1 つのパラメーターまたは値。

随時経路 (ad hoc route). 定義済みのプロセスに属していない経路。随時経路は、ユーザーが項目をワーク・バスケットに直接割り当てると開始する。ユーザーはその項目を再割り当てすることによって、あるワーク・バスケットから別のワーク・バスケットへの経路を手動で定めることができる。

スキャナー (scanner). 空間パターンを一部分ずつ調べ、そのパターンに対応するアナログまたはデジタルの信号を生成する装置。

スキャナー・ワークステーション (scanner workstation). スキャナーを装備した表示ワークステーション。

スキャン (scanning). 文書を Content Manager for iSeries ワークステーションに入れるための物理的プロセス。文書がスキャンされると、それは永続的に保管される。

ステージング (staging). 保管されたオブジェクトを、オフラインまたは優先順位の低い装置から、オンラインまたは優先順位の高い装置に移動するプロセス。通常、システムからのオンデマンドまたはユーザーの要求によって行われる。ユーザーが永続ストレージに保管されているオブジェクトを要求すると、作業コピーがステージング域 (*staging area*) に書き込まれる。

ストレージ (storage). 記憶装置にデータを入れる操作。

ストレージ方式 (storage method). 光ディスクと一緒に保管するために文書をグループ化する手法。

ストレージ・クラス (storage class). ストレージ・クラスは光ディスク・システム ID と組み合わせて、文書を保管できる光ディスク・ボリュームのセットを定義する。同じストレージ・クラスと光ディスク・システム ID を持つ文書は、同じ光ディスク・ボリュームに保管される。

ストレージ・システム (storage system). Content Manager for iSeries での、ストレージに関する総称の用語。

スプール・ファイル (spool file). 印刷を待機している出力データ、またはプログラムによる処理を待機している入力データを保持するファイル。

スロット (slot). (1) 取り外し可能な記憶メディアとして使用される装置内の位置。(2) 光ディスク・カートリッジが保管されている光ディスク・ライブラリー内のスペース。光ディスク・カートリッジ (*optical cartridge*) を参照。

制御ファイル (control files). オペレーター、およびシステムが認識する文書のタイプによって実行される作業のカテゴリーを支配するファイル。

属性 (attribute). Content Manager for iSeries の API で使用され、項目 (文書またはフォルダー) と関連付けられる単一の値。各索引クラスについて、8 個までの属性をもつことができる。

[夕行]

注釈 (annotation). 追加の記述的なコメントまたは説明のための注。

中断 (suspend). 指定された条件が満たされるまで、作業パッケージをワーク・バスケットに保持しておくこと。作業パッケージを中断する条件は複数設定できるので、1 つの作業パッケージについて複数の中断要求が存在することもある。文書の作業パッケージは、特定の日付により中断することができる。フォルダーの作業パッケージは、特定の日付または索引クラスにより中断することができる。

直接アクセス記憶装置 (DASD) (Direct Access Storage Device (DASD)). アクセス時間がデータの保管場所に左右されない装置。

テープ (tape). *magnetic tape* (磁気テープ) を参照。

テープ・カートリッジ (tape cartridge). カートリッジ (*cartridge*) を参照。

ディスプレイ・ワークステーション (display workstation). 以前にスキャンされた文書や iSeries サーバーにインポートされた文書を表示するために主として使用されるイメージ処理ワークステーション。

独立型 (stand-alone). 他のすべての装置、プログラム、またはシステムから独立している操作に関する用語。

特権 (privilege). Content Manager for iSeries に保管されているオブジェクトに関する特定のタスクをアクセスまたは実行するためのユーザーの権限認可。システム管理者が特権を割り当てる。

特権セット (privilege set). Content Manager for iSeries の場合、システムのコンポーネントや機能を処理するための特権のコレクション。システム管理者が、ユーザー (ユーザー ID) およびユーザー・グループに特権セットを割り当てる。

[ナ行]

ネットワーク (network). 情報の送受信のために接続されるプログラムおよび装置の編成。

ネットワーク・テーブル・ファイル (network table file). 各 Content Manager for iSeriesサーバーのそれぞれのノードに関する、システム固有の構成情報が入っているテキスト・ファイルであり、インストール時に作成される。サーバーはそれぞれ、それを識別するネットワーク・テーブル・ファイルをもっている必要がある。ネットワーク・テーブルの名前は常に、FRNOLNT.TBL である。

[ハ行]

バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB) (Binary Large Object (BLOB)). 単一オブジェクトとして処理される 2 進データの大きなストリーム。

パン (pan). 表示イメージ全体を漸次変換して、イメージの側面移動の視覚的印象を提示すること。

光ディスク (optical). 光ディスク記憶装置に関する用語。

光ディスク (optical disk). 光学技術で読み取り可能なデジタル・データを入れるディスク。デジタル光ディスク (digital optical disk) と同義。

光ディスク記憶サポート (Optical Storage Support). 独立型の光ディスク・ドライブ、光ディスク・ライブラリー、および Content Manager for iSeries の間の通信を

サポートするソフトウェア。このソフトウェアは、光ディスク・コントローラーとして機能するシステム/36™ 5363 装置で実行される。

光ディスク・カートリッジ (optical cartridge). 保護カバーに入った光ディスクからなる記憶装置。カートリッジ (cartridge) も参照。

光ディスク・システム (optical systems). 光ディスク・プラットフォームにイメージ・データを保管するために使用するハードウェア。光ディスク・ライブラリーを収納できるのは、直接接続の光ディスク・システムだけである。

光ディスク・システム・プロファイル (optical system profile). 文書の光ディスク記憶に使用する光ディスク制御機構を定義するために使用されるファイル。

光ディスク・ドライブ (optical drive). 光ディスク上のデータのシーク、読み取り、または書き込みをするために使用されるメカニズム。光ディスク・ドライブは、光ディスク・ライブラリーの中、または独立型の装置として常駐することができる。

光ディスク・ボリューム (optical volume). 光学的に保管されたデータが収納されている両面の光ディスクの片面。

光ディスク・ライブラリー (optical libraries). 光ディスクにイメージ・データを保管するために使用するソフトウェア。光ディスク・ライブラリーは、直接接続光ディスク・システムでのみ使用できる。

光ディスク・ライブラリー・サブシステム (optical library subsystem). イメージ・データを長期間保管できるようにするハードウェアおよびソフトウェア。イメージ・ホスト (image host) も参照。

表示テキスト・オブジェクト・コンテンツ体系 (PTOCA) (Presentation Text Object Content Architecture (PTOCA)). 表示テキスト・データの交換を可能にするために開発されたアーキテクチャー。

フォルダー (folder). Content Manager for iSeries の場合、他のフォルダーまたは文書を収容できるオブジェクト。

フォルダー・バランス (folder balancing). iSeries において、システム内で使用可能なフォルダーに、平等に文書を分散するプロセス。

フォルダー・マネージャー (folder manager). Content Manager for iSeries 以外の IBM Content Manager for iSeries システムの場合、データ・モデルおよび API のサブセットを記述するために使用される用語。Content

Manager for iSeries の場合、Content Manager for iSeries API のセット全体を指す用語。

プッター (platter). 光ディスク (*optical disk*) を参照。

プリンター・ワークステーション (printer workstation). プリンターを装備した表示ワークステーション。

プログラム一時修正 (PTF) (Program Temporary Fix (PTF)). 現在の未修正のプログラムのリリースにある欠陥のために起こったものとして IBM が診断した問題の一時的な解決またはバイパス。

プロセス (process). 作業パッケージの作業を進めるときに従う一連のステップ、イベント、および規則。つまり、事前に定義されたタイプの作業パッケージの作業を進めるときに従う経路、コレクション・ポイント、および決定ポイントを組み合わせたものである。

たとえば、「新しいアカウントの開設」というプロセスの内容は以下のようになる。

- 新しいアカウントの開設に関連する作業パッケージの作業を進めるときに従うステップ
- 新しいアカウントに関連する作業パッケージをシステム上の別の地点に転送するときの条件となるイベント (信用情報の検査など)
- 新しいアカウントに関する情報をもとにそのアカウントを開設するかどうかを決めるとき判断基準となる情報 (承認/却下の判断基準となる信用格付けなど)

プロセス項目 (process item). 作業プロセスの中で構築ブロックとして使用される項目。

プロファイル (profile). システムによって実行される処理のカテゴリとシステムによって認識されるユーザーのタイプに関するファイル。

分散データ管理 (DDM) (distributed data management (DDM)). リモート・システムに存在しているファイルで、アプリケーション・プログラムを働かせるシステム・サポート・プログラムの機能。

文書 (document). (1) 1 つ以上の基本部分が含まれる項目。(2) システムとユーザーの間で独立の単位として保管、検索、および交換することができるテキストの名前付きの構成単位。オブジェクト (*object*) とも呼ばれる。単一の文書に、さまざまなタイプの基本部分 (スプレッドシート・ファイルなどのテキスト、イメージ、オブジェクトを含む) を含めることができる。

文書コンテンツ・アーキテクチャー (DCA) (Document Content Architecture (DCA)). オフィス・システムのネットワーク内でやりとりされる文書に対して情報の整

合性を保証するアーキテクチャー。DCA は、文書の形式と意味を指定するときの規則を提供する。また、変更可能テキスト (変更が可能) と最終形式テキスト (変更が不可) を定義している。

ページ (page). 単一の物理メディア。たとえば、8.5 x 11 インチの用紙。

ページ・イメージ (page image). 1 枚の物理ページを電子的に表現したもの。ページ・イメージの境界は、スキャナーの電気機械特性とその受信側のデータ処理システムで実行されているイメージ収集アプリケーションの仕様によって異なる。

ページ・スキャン (page scan). 物理ページ (紙) をスキャンしてページのビット・イメージを作成する電気機械的な処理。

ボリューム (volume). 便宜的に 1 つの単位として処理できる、データの特定の部分 (データ・キャリアも併せて)。

[マ行]

マシン生成データ構造 (MGDS) (Machine-Generated Data Structure (MGDS)). イメージから抽出されて、汎用データ・ストリーム (GDS) 形式にされたデータ。

[ヤ行]

ユーザー (user). Content Manager for iSeries のサービスを要求している人。この用語は、一般に、Content Manager for iSeries API を使用するアプリケーション開発者ではなく、クライアント・アプリケーションの使用者を指している。

ユーザー ID プロファイル (user ID profile). 各ユーザーごとに 1 つの項目が入っているファイル。項目には処理の適格性などの情報が入れられる。

ユーザー出口 (user exit). (1) IBM 提供プログラムにおいて、ユーザー出口ルーチンに制御を移すことのできる 1 つの点。(2) IBM ソフトウェア・プロダクトから提供されるプログラミング・サービスであり、あとでアプリケーション・プログラムの実行中にユーザー指定のイベントが起こったときに、そのアプリケーション・プログラムに制御を戻すサービスを要求できるものこと。

ユーザー出口ルーチン (user exit routine). IBM 提供のプログラム中のユーザー出口で制御権を受け取るために、ユーザーが作成したルーチン。

優先順位 (priority). (1) タスクに割り当てられたランクであって、システム・リソースを受け取る際の優先度を定めるもの。(2) Content Manager for iSeries のワークフローにおいては、作業を行う際の優先順位を指す。優先順位によって、作業パッケージの作業順序が決まる。番号の大きい方が優先順位が高い。

横並び (side by side). 複数ページ文書の互いに隣り合う 2 ページを表示する文書表示ウィンドウの機能。

[ラ行]

ライブラリー・サーバー (library server). 1 つまたは複数のオブジェクト・サーバー に保管されている項目に関する索引情報が入っている Content Manager for iSeries のコンポーネント。

リリース (release). 作業パッケージの中断条件を取り除き、作業パッケージを処理できるようにすること。保留状態の作業パッケージが保留を解除されるのは、特定の条件を満たしたとき、または権限のあるユーザーが条件を変更して、中断要求の設定を手操作により解除したときである。

レンダリングする (render). 通常であればイメージとは無関係なデータを、イメージとして捕らえて表示すること。Content Manager for iSeries の場合は、表示の目的でイメージとしてワード処理文書を提示することができる。

ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) (Local Area Network (LAN)). 限定された地域内でユーザーの構内にあるコンピューター・ネットワーク。

[ワ行]

ワークステーション (workstation). ユーザーが入力、索引付け、および印刷をするときに使用するコンピューター処理装置、イメージ・ディスプレイ装置、スキャナー、およびプリンター。

ワークフロー(workflow). 企業において作業プロセスおよび作業環境を定義して、作業の流れを自動化しビジネス・プロセスを制御するためのシステム。

ワーク・バスケット (workbasket). 作業パッケージを収納するもの。ワーク・バスケットは、プロセス定義または随時経路の一部として使用することができる。Content Manager for iSeries では、その後の処理を待つために作業パッケージを割り当てできる Content Manager for iSeries システム内の論理位置。

ワーク・バスケットの定義には、その内容の表示、状況、およびセキュリティーを制御する規則が含まれません。

[数字]

1 バイト文字セット (SBCS) (Single-Byte Character Set (SBCS)). それぞれの文字が 1 バイトを占める文字のセット。

2 次プロセッサ (secondary processor). 処理装置のグループの中で、1 次装置以外の処理装置。

2 バイト文字セット (DBCS) (Double-Byte Character Set (DBCS)). それぞれの文字が 2 バイトを占める文字のセット。記号が多いため 256 個のコード点では表現できない言語 (日本語、中国語、韓国語など) では、2 バイト文字セットが必要となる。DBCS 文字の入力、表示、および印刷には、特別なハードウェアおよびソフトウェア・サポートが必要とされる。

A

access list (アクセス・リスト). 1 つまたは複数の個々のユーザー ID またはユーザー・グループ、および各自のユーザー ID またはユーザー・グループに関連する特権セット からなるリスト。アクセス・リストは、Content Manager for iSeries で項目へのユーザー・アクセスを制御するために使用される。アクセス・リストは、索引クラス、ワーク・バスケット、およびプロセスに関連付けることができる。

APAR. プログラム診断依頼書 (Authorized Program Analysis Report)。

API. アプリケーション・プログラミング・インターフェース (Application Programming Interface)。

APPC. 拡張プログラム間通信機能 (Advanced Program-to-Program Communications)。

APPN[®]. 拡張対等通信ネットワーク機能 (APPN)。

AS/400[®]. Application System/400[®] のこと。

D

DASD. 直接アクセス記憶装置 (Direct Access Storage Device)。

DBCS. 2 バイト文字セット (Double-Byte Character Set)。

DDM. 分散データ管理 (Distributed Data Management)。

H

HTML. ハイパーテキスト・マークアップ言語 (HyperText Markup Language)。

I

iSeries オブジェクト・ディレクトリー・プロファイル (iSeries object directory profile). イメージ文書保管に使用される iSeries オブジェクト・ディレクトリーを識別するために Content Manager for iSeries で用いられる制御ファイル。

L

LAN. ローカル・エリア・ネットワーク (Local Area Network)。

LIFO (後入れ先出し法) (LIFO (Last In, First Out)) . キュー手法の 1 つ。最後にキューに入れられた項目が次に取り出される。

LU 6.2. システム・ネットワーク体系 (SNA) において、2 つのアプリケーション・プログラムが分散処理環境で確立するセッションの 1 タイプ。SNA 文字ストリングまたは構造化フィールド・データ・ストリームが使用される。たとえば、iSeries アプリケーションとの間で CICS[®] 通信を行うプログラムなどがある。

M

MGDS. マシン生成データ構造 (Machine-Generated Data Structure)。

MO:DCA. 混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー (Mixed Object: Document Content Architecture)。

MO:DCA-P. 混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー・プレゼンテーション (Mixed Object: Document Content Architecture-Presentation)。

MRI. 機械可読情報 (Machine-readable information)。

N

NLS. 各国語サポート (National Language Support)

O

OS/2[®]. Operating System/2[®] のこと。

OS/400. Operating System/400[®] のこと。

P

PDF. Portable Document Format。

PTF. プログラム一時修正 (Program Temporary Fix)。

PTOCA. 表示テキスト・オブジェクト・コンテンツ体系 (Presentation Text Object Content Architecture)。

S

SBCS. 1 バイト文字セット (Single-Byte Character Set)。

SMS. システム管理ストレージ (System-Managed Storage)。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- インストール 13
 - 後処理 16
 - 完了 19
 - 2 次サーバーに関する考慮事項 27
 - Content Manager for iSeries 13
 - Content Manager for iSeriesのインストール 13
- インストール, 3995 042 型, 直接接続光学式カートリッジの追加および初期化 24
 - Content Manager for iSeries のカスタマイズ 23
- インストール後処理 16
- オブジェクト・サーバー 3

[カ行]

- 環境
 - 現在の分析 1
- 完了, インストール 19
- クライアント 4
- 計画, システムの通信 6
- 計画, 通信に関する 6
- 計画, ハードウェア・コンポーネント 5
- 計画, 光ディスク記憶装置 23
- 計画, ライセンス順守に関するモニター 7
- 権限
 - 割り当て 21
- 構成, 独立型オブジェクト・サーバー 27
 - 既存の iSeries ユーザー・プロフィール 27
- 構成, TCP/IP の 21
- コマンド
 - GRTOBJAUT 27
- コンポーネント
 - ハードウェアの計画 5

[サ行]

- サーバー
 - オブジェクト 3
 - ライブラリー 3

- システム
 - 通信の計画 6
 - 光ディスク 4
 - Content Manager for iSeries システムの計画と設計 5
 - Content Manager for iSeries の構成の選択 2
- システム日付 28
- ストレージ
 - 計画 23
- セキュリティー・レベル 28
- 前提条件
 - ハードウェアとソフトウェア 13
- 装置記述 28

[タ行]

- 通信
 - 計画 6
- 通信 (QCMN) サブシステム 28
- データ・サーバー
 - Content Manager for iSeries のカスタマイズ, 3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー用の 23
 - デフォルト, ユーザー・プロフィール 19
 - トークンリング・ネットワーク 28
- 特記事項 31

[ハ行]

- ハードウェアとソフトウェア
 - Content Manager for iSeries のインストール 15
 - ハードウェアとソフトウェアの前提条件 13
 - バックアップおよびリカバリー 9
 - 光ディスク記憶装置
 - 計画 23
 - 光ディスク・システム 4
 - 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー
 - 3995 用の Content Manager for iSeries のカスタマイズ 23
 - プロフィール
 - 既存の Content Manager for iSeries ユーザーの変更 20
 - デフォルト・ユーザー 19
 - ユーザーの作成または変更 19
- 分析, 現在の環境 1

[マ行]

- マイグレーション
 - 2 次サーバーに関する考慮事項 27

[ヤ行]

- ユーザー・プロフィール 19
 - 既存の Content Manager for iSeries の変更 20
 - 作成または変更 19
 - デフォルト 19
- ユーザー・プロフィール, Content Manager for iSeries で使用する追加ユーザーの定義 19
 - 追加を定義 19
- ユーザー・プロフィールと Content Manager for iSeries 19

[ラ行]

- ライセンス順守に関するモニター 7
 - 計画 7
 - ユーザー別価格設定 7
- ライブラリー・サーバー 3
- リモート構成リスト 28
- ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 28

[ワ行]

- ワークフロー・ビルダー
 - Content Manager for iSeries 4
 - 割り当て, 権限 21

[数字]

- 2 次サーバーに関する考慮事項 27
- 3995 042 型, 直接接続光学式カートリッジの追加および初期化 24
 - Content Manager for iSeries のカスタマイズ 23
- 3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー
 - Content Manager for iSeries のカスタマイズ 23
- 3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー用の Content Manager for iSeries のカスタマイズ 23

3995、LAN 接続
文書保管の検証 24

C

Content Manager for iSeries システム
計画と設計 5
Content Manager for iSeries システムの計
画と設計 5
Content Manager for iSeries システムの構
成の選択 2
Content Manager for iSeries システムの設
計 5
Content Manager for iSeries ソリユーショ
ンの計画 1
Content Manager for iSeries のインストー
ル 15
Content Manager for iSeries の紹介 1
Content Manager for iSeries ワークフロ
ー・ビルダー 4

G

GRTOBJAUT コマンド 27

L

LAN 接続 3995 のインストール
文書保管の検証 24

Q

QCMN (通信サブシステム) 28
QUSER (デフォルト・ユーザー) 28

S

SECURELOC パラメーター 28

T

TCP/IP
構成 21



プログラム番号: 5722-V11

Printed in Japan

SC88-4001-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12